

ジョブローテーション、乗務員勤務制度改悪、ダイ改合理化、ローカル線切り捨て反対！ 定年延長と65歳まで働ける職場を！

## 「ペンライト広場が人生変えた」

# ユン・ソンニョル弾劾の闘いで労組への支持、青年・女性の加入が増加



1月13日、ソウルで行われた民主労総 全国金属労働組合 巨済統営固城造船下請け支会の闘争文化祭。(キム・ヘジョン記者 ハンギョレ新聞社)

ユンソンニョル元大統領（4月4日に罷免）が強行した非常戒厳の衝撃をうけ、弾劾・罷免を求める集会には多くの若者がアイドルの応援に使うペンライトを持って参加しました。20〜30代の女性や性的マイノリティーの人々がその闘いの主体となりました。そして、労働組合や政党への加入も広がっています。

主に青年層からなる大学院生労組は、昨年12月2日から今年4月4日の間に組合員数が2倍以上に増加しました。新規組合員の51%が女性、8%が性的マイノリティーで、組合内部の比率は41%から59%に増加

しました。正義党は同時期の新規党員の18%ほどが20〜30代の女性。党員内の割合が5%しかないと考えると大きな変化です。

### パク・クネ弾劾闘争のときも見られなかった労組への支持

こうした中、労働組合に対する支持も広がっています。

「労組のベストを着て食堂で食事をした時、勘定を済ませようとしたら、他の誰かがすでに私の分まで払っていた」「労組のベストを着て地下鉄に乗っていたら、席を譲ってくれた。座って帰ってきたけど、涙が出そうになった」といったエピソードが紹介されています。

韓国・民主労総は100万人を超える組合ですが、「韓国社会の労働組合に対する嫌悪感是非常に強い」と言われ、その闘いも簡単な道ではありません。2016〜17年のパク・クネ元大統領弾劾の闘いの過程では、組合の旗を降ろすようにも要求されてきました。

一方、今回の闘いでは、集会現場で民主労総の鉢巻きとペンライトをとりかえようという若者たちがうまれてきます。時代は大きな転換を迎えています。